

市民のこころを映す

第20期市民大学運営委員長

齋藤 省吾さん

6月3日、本年度の市民大学の開講式が行われました。平成3年の合併を機に再スタートした市民大学も今年で20年。運営委員(現在10人)として参加後、第9期(平成11年度)からは運営委員長として活動されてきた齋藤さん。

「市民大学の学びから蓄えた知恵をまちづくりの一助に、そしてコミュニケーションの場にしていただけたら」との思いでやってきました。

「メニユーづくりは「交流会やアンケートを参考に委員がアイデアを出し合いじっくり検討

していただきます。講師は、地元にかかわりのある人が一番。聞いて分か



「最近では若い人たちの参加も多くなってきました。市民大学を通して、忘れそうなることを取り戻し、市民の心の中で互いにつながりを持つて行けたら」との思いが各講座ににじみ出ます。

「これまでご協力いただいた講師の方をはじめ、関係者の方々に深く感謝します」と振り返り、懐かしい思い出がよみがえっていました。

今年の第1回の講座、高須信賢社長(岩手東芝株)のお話に「感激した。第20期の最初の講

義にふさわしく、たくさんの方の励みとパワーをいただいた」と感動しながらも、「今後は大学院も設置したい」と、先を見据える目は、いつまでも穏やかな齋藤さんでした。

「持たせながら北上らしい魅力のある講座を目指し、時には喧々々々々の議論にもなりますが、常にアンテナを張り巡らしている委員の皆さんとバランスのとれた10講座に絞り込んでいます」と笑顔で話します。でも、「最近では歴史関係が少なくなったかな?」とのつぶやきも。



今年の開講式で運営委員の紹介をする齋藤さん(左)と委員の皆さん

国際交流ルーム発



ハロー! まいばれんど 122 「チュニジアってどんな国?!」どんな国シリーズ13

「クスクス」を作ってみなで食べよう! 参加者募集

北アフリカに位置するチュニジアは、地中海をはさんで向かいがすぐイタリア。歴史好きにとっては古代カルタゴ。サッカーファンならワールドカップに全4回出場の強豪チームがあることでも有名。今から約2800年前、フェニキア人によって都市国家カルタゴがこの地に建国され、東西地中海の貿易中継地として栄華を極めました。今回は北上在住のチュ



当ルームで日本語を勉強しているリム・フェキ・ラビさん

ニジア人ご夫妻からチュニジアの歴史や文化を紹介していただき、「クスクス」料理にチャレンジします。

- と き：7月17日(土)午前10時~午後2時30分
- と ころ：生涯学習センター調理室
- 定 員：小学生以上先着30人(託児希望者は要相談)
- 参加料：500円(材料代)
- 申し込み：7月12日(月)までに同ルームへ

国際交流ルーム

電話・ファクス：63-4497

電子メール：kiah@kitakami.ne.jp

おでんせプラザぐろーぷ3階 生涯学習センター内

開館日：毎週月-土曜日 午後1時-7時

休館日：日曜・祝日、第3水曜日、年末年始



中央図書館 ☎ 63-3359
江釣子図書館 ☎ 77-2215
和賀図書館 ☎ 72-2322

きたかみ物産館

ジャレットとバラの谷の魔女

あんびる やすこ
白ぶたパイ 今江 祥智
このおみせなあに はた こうしろう
えがおがいいね 下田 冬子
忍者カケルの算法帖 大槻 正伸
実録事業仕分け 若林 亜紀
すれ違う背中を 乃南 アサ
いいんだか悪いんだか 林 真理子
シヨパン奇蹟の一瞬 高樹 のぶ子

《6月の新着本から》

『炎上する君』

西 加奈子 著
角川書店 出版

恋に戦う君を誰が笑うことができようか！何かにとらわれて動けなくなってしまったわたしたちに訪れる変化。奔放な想像力がつむぎだす不穏で愛らしい物語。



『木の声が聞こえますか』

池田 まき子 著
岩波書店 出版

樹木の心に寄り添って診断し、治療を行う「樹木医」塚本こなみ。彼女のこれまでの仕事や樹木に寄せる思い、樹木から受け取ったメッセージを紹介する。



有機栽培メキシコ豆100g 500円
そのほか100g 350~450円

NPO法人なごみの会
しらゆり工房
下江釣子11-159-1
☎ FAX 73-7192

しらゆりの花に込められた思い
しらゆりコーヒー



焙煎グループの皆さん

マイルドな甘さが魅力
皆さんに喜ばれるように焙煎方法を工夫しています。今年4月から販売を始めた有機栽培のメキシコ豆はレギュラーコーヒーの中ではマイルドな甘さがあると好評です。江釣子シヨッピングセンター・パルのハートフルまごころ工房で販売中。注文に応じてお好みのひき方もできます。

散歩道

121

北上市長 伊藤 研

クールビズ

春先から気温が上がらず冷夏が心配されていたが、6月1日から市役所もクールビズ(夏の軽装を始めた。ネクタイ一本の差とはいえ涼感実感できています。

サラリーマン時代、都会での通勤電車を思い出す。冷房は完備されておらず汗まみれになった。ネクタイ着用は常識であり、汗が染み込んで無残にも変色してしまつたネクタイにガツカリした。夏は安いネクタイでと思つても、営業部員は「身だしなみ」を指導され、選別には気を使った。

学生時代、母は洋装店を営んでおり、月に一度は仕入れのため上京した。わたしはその都度同行して生地や洋小物の見方、色のコーディネートなど学び、門前の小僧となり興味を持つようになった。

うになつていた。

母は背広とネクタイの選び方を特に教えてくれたが、安サラリーマンはウインドーシヨッピングで目を肥やすのみで満足していた。

サラリーマンをやめ帰郷するとラフなスタイルで過ごす癖がついていた。ある日、おしゃれが身に付いている父から「もう少し服装に気を使え」と注意され、ジャケットとネクタイをプレゼントされた。ダンディでないことも、素敵なネクタイを度々プレゼントしてくれた。年を取るほど身なりをきちんとすることは大切なことと、二人とも同じことを言った。

クールビズで楽なスタイルをしつつ、ふとわたしも二人の年齢に近づいていることに気が付いた。

来客は今日もきちんとネクタイを着用していた。「わたしたちも後ほどネクタイを外します」と気を使わせてしまった。

期間中は涼しげな好印象を与えつつ夏の暑さを楽しむことにしよう。